

**児童虐待防止に向けた
取り組みをサポート**



函館中央病院(函館市)
医療福祉相談室
社会福祉士
藤井 三四郎 さん

函館中央病院は総合周産期母子医療センターの認定を受け、一般小児科のほか未熟児や新生児、発達障害、アレルギー疾患等子どものほとんどの病気に対応。こうした体制の中で院内児童虐待防止委員会を設置し、児童虐待の早期発見や予防活動に取り組んでいる。医療福祉相談室に所属する藤井さんは同委員会の事務局として関わっている。

「核家族化、貧困、若い年代での妊娠など児童虐待は複数の要因が重なって起こるケースが多い。重要なのは虐待に至る前段階で発見し、支援につなげていくこと。」孤立“するような状況を防ぐ関わりが大切です”。

同委員会の取り組みは児童相談所との勉強会をきっかけに、医療機関、自治体、保健所、学校、警察、検察、弁護士、児童養護施設等々子どもに関連する職種が参加する「チャイルドファーストはこだて」に発展。2か月ごとに勉強会を開催し、毎回100人前後が参加している。藤井さんは企画・運営・広報の立場で参画し、「今後も会の継続に努め、子どもたちの支援の輪を広げていきたい」と話す。

今年7月には函館市で「第11回日本子ども虐待医学会学術集会」が開催されることになっており、事務局の一人として現在その準備にも奔走中という。